

柳生 (やぎゅう)



収穫目安 (定植後)

夏まき：65～68日

特徴

- 夏播き年内収穫に適した品種。
- 球形はやや腰高の偏平形。色は鮮緑色で、結球表面には光沢がでる。定植後65~68日が収穫目安の中早生種となり、球重は1.4~1.6kgが収穫目安。「金力」よりはやや晩生種となる。
- 葉質はやや薄目で非常に柔らかく、食味は適度な甘みを有し、良好。生食等にも適する。
- 肥大性に優れ、球揃いの良い大玉収穫を狙える。

栽培適期表

地域	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高冷地				●	×	—	■						
冷涼地					●	×	—	■					
一般地							●	×	—	■			
暖地								●	×	—	■		

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

栽培方法

<栽培管理>

夏播き年内収穫に適した中早生品種です。外葉が大きくなる(葉柄もやや長い)品種ではありますが、草勢が極端に強い品種ではありません。外葉形成を抑制する目的で肥料を控えて栽培すると、小球になる可能性があるため、注意が必要です。肥培管理は通常通りに行い、株間をやや広げて(35~40cmで)栽培して下さい。生育の勝ち負けが発生せず、揃いの良い大玉収穫を狙いやすいです。ただし、40cm以上の株間では球の直径が20cmを超え、箱詰めが困難になることもあるため、注意が必要です。



生育中でも外葉は生育旺盛

<条間 130cm・2条 × 株間 35cm 定植>

地床育苗を行う場合には、生育の弱い苗の定植を避けるようにします。初期に生育差がついてしまうと、(外葉が大きいため)横の株に負けてしまい収穫に至らない可能性があります。セル育苗では地床育苗ほど大きな差は出ませんが、同じく注意が必要です。

厳寒期にはアントシアニンの発生が認められるため、収穫時期の設定に注意してください(青果出荷を目的とする場合、一般地基準で11月末までの収穫を推奨)。

<栽培方法>

株間は35~40cm、条間は65~70cmの1条定植で、栽植本数は4,000~4,600株/10aを推奨します。肥培管理は一般的な中早生種と同程度かやや少なめとし、総施肥量はチッソ換算で14~16kg/10aを標準とします。元肥メインとし、元肥:追肥=2:1程度のバランスで管理します。葉質が柔らかいため、収穫期には肥効が落ち着く管理を推奨します。また、適期収穫に努めてください。

<ご注意>

上記の数値は弊社圃場内での実例であり、各地域によって最適な条件へ変更していただくようお願いいたします。弊社圃場は奈良県天理市内にあり、温度域としては中間地、土壌は埴壤土での栽培条件となっています。